

目標・行動計画・成果指標 (P)

取組内容 (D) / 取組の結果・課題 (C)

「○」: 取組内容、「⇒」: 結果、「・」: 課題

結果・課題に対する今後の対応等 (A)

- 【目標】**
- 電力の安定供給
 - 地球環境への貢献
 - 適正な利益の確保
 - 地域社会への貢献
- 【行動計画】**
- ①水力発電所のリニューアル
 - ②施設の適切な維持管理
 - ③小水力発電所の新規開発検討
 - ④小水力発電に係る技術支援
 - ⑤再生可能エネルギーの技術開発に向けた検討
 - ⑥電力システム改革後の対応
 - ⑦利益の活用検討
 - ⑧FIT制度終了後の施設のあり方検討

【成果指標】

指標	目標と実績 (R5年度上期)			単位
	達成年度	目標値	実績	
供給電力量				
☆ 全発電計	毎年度 (目標値はR5上期)	78,385	84,153	MWh
(水力発電)		62,292	70,051	MWh
(風力発電)		10,910	9,277	MWh
(太陽光発電)		5,183	4,825	MWh
再生可能エネルギーを利用した発電によるCO2削減量				
☆ 全発電計	毎年度 (目標値はR5上期)	44,100	47,208	トン
(水力発電)		35,000	39,298	トン
(風力発電)		6,200	5,204	トン
(太陽光発電)		2,900	2,706	トン
年間故障停止時間				
☆ (水力発電)	毎年度 (目標値はR5上期)	110	61	時間
☆ (風力発電)		4,500	6,379	時間
☆ (太陽光発電)		125	0	時間

☆: 毎年度目標値

- ①水力発電所のリニューアル**
 老朽化した水力発電所において、今後も安定した発電が可能となるよう順次再整備(リニューアル)
 ○西部事務所と本局の連携を密にしながら、工事間の調整や工程・現場管理を実施
 ⇒三隅川発電所: R5.4.2にFIT制度適用による運転開始
 ⇒勝地発電所: R5.12.2運転開始に向けてスケジュール通りに進捗(9月末現在、水車・発電機及び配電盤等設置作業中、進捗率97.9%)
 ⇒八戸川第三発電所: R6.3.2運転開始に向けスケジュール通りに進捗(9月末現在、既設機器撤去及び水車・発電機等設置作業中、進捗率97.0%)
 ○労災事故防止・安全対策
 ⇒八戸川第三発電所リニューアル工事で労災事故1件発生
 ・再発防止対策の徹底
- ②施設の適切な維持管理**
 ○故障停止時間の低減
 ⇒企業局電気工作物保安規程(電気事業法に基づき定める保安基準)で規定する巡視、点検、作業の遵守
 ⇒高野山風力発電所8号機は、増速機アライメント逸脱、修繕による停止。R5.7から通常運転再開
 ○高野山風力発電所の予防保全(製造中止等による入手困難な機器に新しい機器を導入、納期に半年程度の時間を要する部品について、予備品として発注)
 ⇒経年劣化による部品の故障は、使用実績より交換周期を定め、故障発生前に交換することにより予防保全の実施、稼働率が向上、故障した場合でも早期復旧対応が可能
 ・予備品の納期短縮
 ○点検時の安全確保、管理の高度化
 ⇒ドローンの活用により、これまでと異なる視点での点検を実施
 ・降雨、風の影響に弱く、ドローンへのすべての置換は困難、資格取得の促進
 ⇒目視確認が困難な場所での点検にファイバースコープを活用
 ○スマート保安技術を用いた保安力の維持向上と業務改善
 ⇒巡視記録の電子化の検討、デモ機を用いた実証実験
 ・昨年度構築した通信基盤(インターネット網)と全庁ファイルサーバーとの接続検討
 ・巡視記録等の電子データが外部環境から記録・保存可能となる等利便性の向上
 ⇒発電所での状態監視方法について予防保全を目的に振動診断技術の活用
 ・振動診断を活用可能な人材育成
- ③小水力発電所の新規開発検討**
 ○過去に事業化を断念した地点の再調査
 ⇒1地点において再調査を継続して実施中
 ○再生可能エネルギーの導入促進に関する要望
 ・新規開発においてボトルネックとなっている諸課題を確認
- ④小水力発電に係る技術支援**
 ○これまでに培った知識や経験を活かし、県内市町村等の小水力発電の新規開発、リニューアル及び維持管理について助言支援(H25からこれまでに12件の技術支援を実施、うち10件事業化)
- ⑤再生可能エネルギーの技術開発に向けた検討**
 ○先駆的な実証実験事業等、技術開発に資する事業について情報収集
 ⇒県庁内、国、他県及び民間企業の情報を収集(水素エネルギー)
- ⑥電力システム改革後の対応**
 ○公営電気経営者会議等を通じて情報収集
- ⑦利益の活用検討**
 ○水力発電所リニューアル完了後の固定価格買取制度(FIT)による利益の活用を検討
 ⇒利益の一部を一般会計に繰り出し、地域振興部が再生可能エネルギー利活用総合推進事業(再生可能エネルギー設備等導入支援事業)を実施(15市町に支援)
- ⑧FIT制度終了後の施設のあり方検討**
 ○FIT終了後の施設の状況について電源種別毎に検討
 ⇒関係機関を通じて、市場動向、脱炭素情勢等の情報を収集
 ⇒風力発電所のリプレース等について、民間事業者との意見交換を踏まえ、望ましい方向性を検討

- ・リニューアル工事の着実な進捗管理
 ※R5.12.2に運転開始予定であったが、試験に必要な河川流量が無いためR6.2.2に延期
- ・再発防止対策の実施状況を定期的に確認
 ・工事の安全管理を注意喚起し、労災事故防止に務める
- ・継続して実施
- ・予備品は今年度納入予定
- ・継続して実施
 ・機器操作が可能な人材の育成、活用範囲の拡大
- ・類似業務への展開の検討
 ・技術継承の場を設け、展開
 ・将来に亘る技術継承の方策の検討
- ・実践及び研修により、保全方式や振動診断技術を習得
- ・再調査の継続実施
- ・公営電気事業経営者会議を通じ、諸課題について要望
- ・継続して実施
- ・情報収集活動を継続
- ・情報収集活動を継続
- ・利益の活用方法については知事部局と検討
- ・情報収集活動を継続
 ・今後の方向性を示す

(1) FIT運転開始 (三隅川発電所)



(2) 勝地発電所リニューアル工事(水車設置状況)



(3) 江津高野山風力発電所 増速機軸受搬入(8号機)



(4) 江津高野山風力発電所点検作業(風車内)



企業局経営計画 令和5年度上期取組状況

工業用水道事業

目標・行動計画・成果指標 (P)

- 【目標】**
 1. 工業用水の安定供給
 2. 経営の改善
- 【行動計画】**
 ①施設の長寿命化
 ②施設の適切な維持管理
 ③新規需要の開拓
 ④経費の縮減

【成果指標】

指標	目標と実績			
	達成年度	目標値	実績	単位
給水制限日数				
☆(飯梨川)	毎年度	0	0	日
☆(江の川)		0	0	日
売水率				
(飯梨川)	R7	60	54.8	%
(江の川)		56	59.5	%
売水先の数				
(飯梨川)	R7	34	28	社
(江の川)		4	4	社
送水管の耐震化延長(未供用区間を含む)				
(飯梨川)	R7	6,453	6,009	m
(江の川)		6,649	6,649	m
送水管の耐震化率				
(飯梨川)	R7	31.5	30.4	%
(江の川)		90.2	90.2	%
一般管理費の縮減(H26年度決算比)				
(飯梨川)	R7	△10	-	%
(江の川)		△10	-	%

☆: 毎年度目標値

取組内容 (D) / 取組の結果・課題 (C) 「○」: 取組内容、「⇒」: 結果、「・」: 課題

- ①施設の長寿命化**
 ○施設管理基本計画及び中期事業計画策定
 ⇒(飯梨川)H30.3策定、(江の川)R2.2策定
○中期事業計画に基づく施設の大規模修繕・更新の計画的な実施
 ⇒飯梨川は国の補助事業を活用し事業を実施
 ⇒揖屋地区送水管布設替工事及び馬淵工業団地内配水管布設替詳細設計業務を発注
 ・国の補助事業制度においては、単年度毎に採択が必要な強靱化事業に限定
 ・事業進捗に伴う工業水道料金上昇の懸念
- ②施設の適切な維持管理**
 ○企業局電気工作物保安規程(電気事業法に基づき定める保安基準)で規定する巡視、点検、作業の遵守
 ⇒事故、故障による給水制限はゼロ
【共通】
 ○故障の迅速な復旧
 ⇒故障・事故対応記録の整備(電子化)。故障発生時にデータ検索により故障対応時間を短縮
【飯梨川】
 ○渇水時は布部ダムと山佐ダムから効率的に取水し、下流の逆調整池で都市用水と農業用水に適切に振り分け調整を実施し、降雨があった場合は、速やかに両ダムを貯水運用に切替
○渇水時の都市用水確保のため、布部ダム貯水運用について管理者(県土木部)との調整
 ・台風7号接近に伴い、初の事前放流(8/14)、ダム水位の低下による使用水量の減少の懸念
○農業用水利者との取水運用調整及び管理者(安来市)との調整
 ⇒渇水時においても給水制限することなく安定した取水を実現
 ⇒降雨及び布部ダム放流時の逆調整池運用状況を農業用水利管理者(市)と連絡実施
○渇水時における需要家との情報交換
 ○大雨により原水濁度上昇が予測される場合は、流入弁を適切に調整し濁水の流入を最小限に抑制し、需要家への状況連絡、濁度度上昇が事業に影響がある需要家と情報交換を随時実施
【江の川】
 ○夏季の藻の活性によるpH上昇対策
- ③新規需要の開拓**
【飯梨川】
○工水利用についての意向調査を実施し、最適な水量について助言
 ⇒既存1社で増量(R5.7~)
 [江の川]
 ○島根県商工労働部、江津市商工観光課等と連携し、豊富で良質な工業用水をPR
- ④経費の縮減**
 ○TV会議システムの活用
 ⇒使用料、旅費等の経費削減

結果・課題に対する今後の対応等 (A)

- ・中期事業計画期間中(20年間)は、可能な限り補助事業申請を実施
- ・補助制度について、予算枠の拡充や内容の見直し等を国に要望
- ・継続して実施
- ・継続して実施
- ・継続して実施
- ・放流対応について、4者(河川課、広瀬土木事業所、企業局(施設課、東部事務所)で検証を実施
- ・継続して実施
- ・都市用水会議の開催により渇水の状況を周知
- ・高濁度原水が流入した際には、同様に対応
- ・pH上昇時の対策の実施(沈殿池の運用変更、水中ポンプ設置による抜気)
- ・工水の需要を情報収集し検証の上、助言
- ・新規需要の開拓に努める
- ・引き続き用水型企業の誘致活動を継続
- ・他の節減策も検討し、引き続き縮減に努める

(1) 東部事務所 逆調整池(運用前点検)



(2) 着水井清掃(今津浄水場)



(3) 布部ダム(放流時)



(4) ドローンによる飯島配水池点検訓練(飯梨川工水)



水道事業

企業局経営計画 令和5年度上期取組状況

目標・行動計画・成果指標 (P)

- 【目標】**
 1. 水道用水の安定供給
 2. 安全で良質な水質の維持
 3. 健全経営の確保
 4. 給水量減少への対応
- 【行動計画】**
 ①施設の長寿命化
 ②施設の適切な維持管理
 ③適切な水質の検査・監視と運転管理
 ④水安全計画の策定と実践
 ⑤経費の縮減
 ⑥水道法改正への対応

【成果指標】

指標	目標と実績			
	達成年度	目標値	実績	単位
給水制限日数				
☆ (飯梨川)	毎年度	0	0	日
☆ (斐伊川)		0	0	日
☆ (江の川)		0	0	日
水質目標値を達成しなかった日数				
浄水池濁度 (0.1度以下)				
☆ (飯梨川)	毎年度	0	0	日
☆ (斐伊川)		0	0	日
☆ (江の川)		0	0	日
浄水池色度 (2.0度以下)				
☆ (飯梨川)	毎年度	0	0	日
☆ (斐伊川)		0	0	日
☆ (江の川)		0	0	日
末端残留塩素濃度 (0.1~0.5mg/L)				
☆ (飯梨川)	毎年度	0	0	日
☆ (斐伊川)		0	0	日
☆ (江の川)		0	0	日
送水管の耐震化延長 (未供用区間を含む)				
(飯梨川)	R7	7,598	5,048	m
(斐伊川)		89,060	89,060	m
(江の川)		15,432	15,432	m
送水管の耐震化率				
(飯梨川)	R7	53.1	35.2	%
(斐伊川)		81.8	81.8	%
(江の川)		98.0	98.0	%
一般管理費の縮減 (H26決算比)				
(飯梨川)	R7	△10	—	%
(斐伊川)		△10	—	%
(江の川)		△10	—	%

※1. ☆: 毎年度目標値
 ※2. 水質目標値は内部管理目標値

取組内容 (D) / 取組の結果・課題 (C) 「○」: 取組内容、「⇒」: 結果、「・」: 課題

- ①施設の長寿命化**
 ○施設管理基本計画及び中期事業計画策定
 ⇒(飯梨川)H31.4 施設管理基本計画策定、R2.2 中期事業計画策定
 ⇒(江の川)R2.2 施設管理基本計画及び中期事業計画策定
 ⇒(斐伊川)R5.3 施設管理基本計画策定
○計画に基づく施設の大規模修繕・更新の計画的な実施 (飯梨川)
 ⇒送水管路更新について飯梨川水道施設管路更新計画策定業務を実施
 ・将来にわたる国の交付金事業の見通しが不透明
 ・事業進捗に伴う水道料金上昇の懸念
 ⇒今津浄水場緩速ろ過池(6号池)更生工事の工事発注
- ②施設の適切な維持管理**
 ○企業局電気工作物保安規程(電気事業法に基づき定める保安基準)で規定する巡視、点検、作業の遵守
 ⇒事故、故障による給水制限はゼロ
【共通】
 ○故障の迅速な復旧
 ⇒故障・事故対応記録の整備(電子化)。故障発生時にデータ検索により故障対応時間を短縮
 ○各ろ過池の状態(※)に伴う適切なろ過池の運用(※水質結果、臭気、目視、ろ過閉塞など)
 ⇒ろ過池の状態に伴い、ろ過量調整及び排水切替(停止)・砂削りを実施
【飯梨川】
 ○湯水時は布部ダムと山佐ダムから効率的に取水し、下流の逆調整池で都市用水と農業用水に適切に振り分け調整を実施し、降雨があった場合は、速やかに両ダムを貯水運用に切替
○湯水時の都市用水確保のため、布部ダム貯水運用について管理者(県土木部)との調整、
 ・台風7号接近に伴い、初の事前放流(8/14)。ダム水位の低下による使用水量の減少の懸念
○農業用水利水者との取水運用調整及び管理者(安来市)との調整
 ⇒湯水時においても給水制限することなく安定した取水を実現
 ⇒降雨及び布部ダム放流時の逆調整池運用状況を農業用水利水管理者(市)と連絡実施
○ろ過機能の低下に伴う調節井の汚れによる濁度上昇、臭気等の発生予防のため、調節井清掃の実施
【斐伊川】
○施設増設事業に伴う水利権の増量申請、施設整備
 ⇒水利権増量申請業務委託契約を締結(6月)、土木工事、電気設備工事、機械設備工事を契約締結(9月)
 ・事業費の増加による料金への影響が懸念
- ③適切な水質の検査・監視と運転管理**
 ○送水末端の水質(残留塩素濃度、濁度、色度)監視により今後の水質変動を予測し、次亜塩素酸ナトリウム注入量を適宜調整
 ⇒目標残留塩素濃度(0.1~0.5mg/L)を維持
○適切な水質管理
【飯梨川、斐伊川】
 ⇒大雨により原水濁度上昇が予測される場合、次の対応により浄水の濁色度を目標値以下に抑制
 (水質悪化ろ過池の貯水入替、原水濁水質ピークカット、沈砂池内濁水排水、貯水量確保等)
【江の川】
 ⇒原水濁度上昇時に適切な凝集剤注入により、濁色度を目標値以下に抑制
- ④水安全計画の策定と実践**
 ○水安全計画(平成29年度に策定)の継続的な実行
- ⑤経費の縮減**
 ○TV会議システムの活用
 ⇒使用料、旅費等の経費削減
- ⑥水道法改正への対応**
 ○水道設備台帳の活用
 ⇒R2に整備した施設管理台帳システムの活用
○水道広域化推進プラン(R5.3策定)の取組
 ⇒市町村課、薬害衛生課と連携し、県内の水道事業の多様な広域化の推進に向け、具体的取組について引き続き検討
 ⇒積算業務における水道事業者への相談(助言)窓口の開設

結果・課題に対する今後の対応等 (A)

- ・(斐伊川)施設管理基本計画に基づいた「中期事業計画」が未策定のため検討
 ・中期事業計画期間中(20年間)は、可能な限り交付金事業申請を実施
 ・受水団体と共に将来に亘る県東部地区の水道施設のあり方を検討中
 ・補助制度について、予算枠の拡充や内容の見直しを国に要望
- ・継続して実施
 ・継続して実施
- ・継続して実施
 ・放流対応について、4者(河川課、広瀬土木事業所、企業局(施設課、東部事務所)で検証の実施
- ・適切な運用管理が行えるよう、水利権についてダムの貯留権分(38,000m³/日)すべてを増量申請
 ・内容を精査した事業費の抑制
 ・R8年4月からの使用開始を目指し、着実な進捗管理
- ・継続して対応
 ・継続して対応
 ・継続して対応
- ・継続して実施
 ・他の節減策も検討し、引き続き縮減に努める
- ・中期事業計画に基づく送水管布設替に応じた時点修正
 ・継続して実施

(1)今津浄水場 6号ろ過池更生工事



(2)江津浄水場 6号ろ過池補砂工事



(3)水質検査(三代浄水場)



(4)特別巡視状況(西部事務所:都治川水管橋)



企業局経営計画 令和5年度上期取組状況

宅地造成事業

目標・行動計画・成果指標 (P)

- 【目標】**
1. 工業団地の分譲促進
- 【行動計画】**
①工業団地の分譲
②江津地域拠点工業団地の造成検討
③進出企業との情報交換
④県・市町村共同工業団地整備事業への対応

【成果指標】

指標	目標と実績			単位
	達成年度	目標値	実績	
分譲率				
(江島)	R7	100	100.0	%
(江津地域拠点)		87	66.0	
分譲面積				
(江島)	R7	-	16,184	㎡
(江津地域拠点)		84,590	48,138	
工業団地整備面積	R7	98,464	136,711	㎡

取組内容 (D) / 取組の結果・課題 (C)

「O」:取組内容、「⇒」:結果、「・」:課題

- ①工業団地の分譲**
〔江島〕
○県道区域内にある公共緑地を道路管理者(松江県土整備事務所)へ管理移管
⇒道路管理者と協議のうえ、伐採・舗装等の整備を実施
・引き渡し手続き
- 〔江津地域拠点〕**
○島根県商工労働部、江津市商工観光課等と連携した分譲促進
⇒**商談中(B工区)1件**
○道路付替工事後の廃道敷地の払い下げ
⇒市道交差点部改良・舗装工事を施工(R4.5~R4.12)後、契約済み
- ②江津地域拠点工業団地の造成検討**
○第三期造成事業着手
⇒**地元自治会、住民、企業への事業等の周知・連絡**
⇒**江津市(森林所有)と用地交渉開始**
・**個人所有地の用地買収、隣接地への損失補償の要否確認、電柱等の支障移転**
- ③進出企業との情報交換**
○年2回開催される団地連絡会議(事務局:江津市、西部事務所)で情報交換
⇒団地連絡協議会(第1回7/3)
- ④県・市町村共同工業団地整備事業への対応**
○島根県商工労働部と連携

結果・課題に対する今後の対応等 (A)

- ・依頼文書・添付図書等の準備
 - ・引き続き分譲促進に努める
 - ・継続して実施、企業立地セミナー参加(10/10)
 - ・支払い確認後、登記手続き(所有権移転)
-
- ・測量等調査委託及び用地交渉
 - ・地権者への聞き取り等調査
 - ・電柱等所有者への補償
-
- ・継続して実施
 - ・下期に第2回目を実施
-
- ・継続して対応



江津地域拠点工業団地



現況

企業局経営計画 令和5年度上期取組状況

個別的取組①

目標・行動計画・成果指標 (P)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 【目標】 | 【行動計画】 |
| 1. 危機管理体制の強化 | ①危機管理体制の強化 |
| 2. 技術力の継承と人材の育成 | ②技術力の継承 |
| 3. 県民理解の促進 | ③人材育成の取組 |
| 4. 地域社会への貢献 | ④わかりやすい情報発信 |
| | ⑤施設見学・出前講座の充実 |
| | ⑥施設周辺地域への対応 |
| | ⑦森づくり事業の実施 |
| | ⑧地域活動への参加 |

【成果指標】

指標	目標と実績			
	達成年度	目標値	実績	単位
危機管理訓練の回数				
☆	毎年度	8	5	回
業務に関係する技術資格の取得数				
☆	R7	累計 80	190	件
ホームページアクセス数				
☆	毎年度	15,000	21,780	件
施設見学・出前講座の参加者数				
☆	毎年度	1,600	946	人
森づくり事業(植栽)箇所数				
☆	毎年度	5	0	箇所
地域活動への参加件数				
☆	毎年度	18	10	件

☆: 毎年度目標値

取組内容 (D) / 取組の結果・課題 (C) 「○」: 取組内容、「⇒」: 結果、「・」: 課題

- ①危機管理体制の強化**
 ○危機管理訓練の実施
 ⇒(合同)4/28ダム管理演習
 ⇒(東部)4/25電気事業地震対応訓練、7/18斐伊川水道合同訓練(受水団体と共同)
・斐伊川水道合同訓練(実体に合ったマニュアルの整備)
 ⇒(西部)6/12高濁度対応訓練、6/12,13取水場オイルフェンス設置訓練
- 原子力災害に向けた取組み**
 ⇒R4年7月「島根県企業局原子力災害時行動計画」策定
 R5年3月「原子力災害時の対応マニュアル」策定
・島根原発稼働に向けて、組織全体の対応能力の向上が必要
- ②技術力の継承**
 ○再任用職員による技術継承
 ⇒再任用職員によるOJTの実施
○リニューアル工事を利用した技術力継承
 ⇒三隅川リニューアル事業の工事記録映像の活用(6/18三隅川発電所見学会にて上映)
○電気工作物保安規程に定める教育(保安研修)の実施
 ⇒(株)高原電気の講師による電気事故防止講習の受講
 ○点検時の安全確保、管理の高度化
 ⇒ドローンを利用した点検、適宜飛行訓練を行い操縦技術の向上を図る
- ③人材育成の取組**
 ○業務に関する技術資格の取得
 ⇒**年度始めに研修計画を作成。当直勤務者も受講しやすい環境づくりを実施**
 ⇒労働安全衛生特別高圧・高圧電気特別教育3、第三種電気主任技術者2
 特別管理産業廃棄物管理責任者2、フルハーネス型安全帯使用作業特別教育4、第三種陸上特殊無線技士1
 準中型運転免許1、2級小型船舶2
 ○その他研修等の実施
 ⇒新任者研修(4/27)、公営企業会計システム研修(7/27)、
 NOMA行政管理講座(地方公営会計基準に基づく予算準備の進め方)(9/25,26)
- ④わかりやすい情報発信**
○三隅川発電所リニューアルお披露目会及び地元見学会の開催
 ⇒**三隅川発電所リニューアルお披露目会6/2、地元見学会を開催6/18**
 ○木都賀ダム記念ダムカードの配布(運用開始60年記念カード)
 ⇒R4.3~木都賀ダム訪問者に通常のダムカードに加え記念カードを配布
 ○テーマソング
 ⇒島根県の遣島使を務めるローカルアイドルグループ「Flood Lyrics」を起用し、テーマソングと事業紹介の動画を配信
○テレビ・ラジオ広報
 ⇒**山陰放送「Bang+」(テレビ)及び「午後はドキドキ」(ラジオ)の番組内で事業紹介(7月、9月)**
 ⇒**テレビ番組は、しまねっこCH(YouTube)にて1年間、配信**
 ○SNS(Facebook、X(旧Twitter)、Instagram)の運用
 ⇒SNSへの投稿回数:141回(Facebook 49回、X 47回、Instagram 45回)
○新聞広告企画への掲載(4U35 SHIMANE:山陰中央新報広報企画)
 ⇒**6/30紙面広告、8/9別刷発行、9/21講演会参加**
 ○3浄水場の水を利用したPRペットボトルの製造

結果・課題に対する今後の対応等 (A)

- ・マニュアルの修正の実施**
 ・対応人員の確保の検討(局全体)、現場に関する職員の情報共有
 ・情報伝達方法の工夫(LINE等の利用の検討)
- ・原子力災害対応職員研修を受講し、災害時の対応能力の向上を図る**
- ・技術継承の場を設け展開
 ・将来にわたり技術が継承される方策の検討
- ・三隅川リニューアル事業の操作研修を動画マニュアルとしてまとめることを検討**
- ・継続して実施
- ・継続して実施
 ・ダム水路主任技術者と電気主任技術者の資格については、取得を促進
- ・継続して実施
- ・下期は12月の放送**
- ・継続して実施

(1)ダム管理演習



(2)保安研修



(3)山陰中央新報広告企画(4U35)取材状況及び紙面掲載



企業局経営計画 令和5年度上期取組状況

個別的取組②

目標・行動計画・成果指標 (P)

- 【目標】**
- 危機管理体制の強化
 - 技術力の継承と人材の育成
 - 県民理解の促進
 - 地域社会への貢献
- 【行動計画】**
- ①危機管理体制の強化
 - ②技術力の継承
 - ③人材育成の取組
 - ④わかりやすい情報発信
 - ⑤施設見学・出前講座の充実
 - ⑥施設周辺地域への対応
 - ⑦森づくり事業の実施
 - ⑧地域活動への参加

【成果指標】

指標	目標と実績			
	達成年度	目標値	実績	単位
危機管理訓練の回数				
☆	毎年度	8	5	回
業務に関する技術資格の取得数				
	R7	累計 80	190	件
ホームページアクセス数				
☆	毎年度	15,000	21,780	件
施設見学・出前講座の参加者数				
☆	毎年度	1,600	946	人
森づくり事業(植栽)箇所数				
☆	毎年度	5	0	箇所
地域活動への参加件数				
☆	毎年度	18	10	件

☆: 毎年度目標値

取組内容 (D) / 取組の結果・課題 (C) 「O」: 取組内容、「⇒」: 結果、「・」: 課題

- ⑤施設見学・出前講座の充実
○施設見学・出前講座
 ⇒新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、施設見学と出前講座を再開(5月)
 ⇒再生可能エネルギーツアーの再開(7月)
 ⇒再生可能エネルギーツアー夏休み編の再開(R1以来4年ぶりに実施)
○短期仕事体験・中学校職場体験学習
 ⇒安心安全で質の高い水道水を提供するための仕事や職場体験を実施

令和5年度上期 施設見学等実績 (人)

	大人	子供	計
施設見学	144	646	790
出前講座	0	83	83
再エネツアー	34	39	73
合計	178	768	946

- ⑥施設周辺地域への対応
○三隅川発電所見学会の実施
 ⇒リニューアル運転再開後、周辺地域の住民を対象に見学会(6/18)を実施

- ⑦森づくり事業の実施
 ○NPO法人等に委託して実施
 ⇒事業委託契約済(5団体)

- ⑧地域活動への参加
 ○河川等周辺清掃、公共施設周辺清掃活動、イベント参加等
 ⇒5/11(東:18名、西:14名)、9/21(東:12名、西:13名)交通安全運動での街頭活動、
 6/7(19名)、9/27(13名)飯梨川河川清掃、
 7/7(1名)、9/16(本:3名、東:2名)さくらおろち湖環境美化活動、
 7/26(19名)江津工業団地クリーン作戦

結果・課題に対する今後の対応等 (A)

・継続して実施

・引き続き丁寧な対応を実施

・事業の着実な実施

・継続して実施

(1)三隅川発電所リニューアルお披露目会



(2)再生可能エネルギーツアー夏休み編



(3)短期仕事体験: 松江高専生(東部事務所)



(4)交通安全運動街頭活動(西部事務所)

